

中部地区英語教育学会三重大会

2007年6月22日

英語を学習する意味が見いだせない学 習者のための自律学習の開発方法(1) －再履修生対象のWriting classでの適用－

京都ノートルダム女子大学
言語学習センター
東郷多津

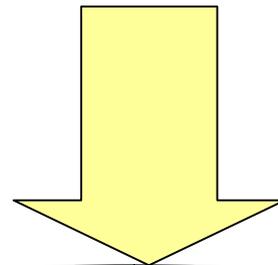
はじめに

- 英語教育の必要性の高まり VS 英語の授業に対する疑問視
- 多様化する入試による多様化する学生
- 実態に合わせた英語教育 VS 従来の英語教育
- リベラルアーツ系大学で教える教師の課題

英語を学習する意味が見いだせない学習者への対応

問題の所在

- 英語を学習する意味が見いだせない学習者の存在
- 必修科目として存在する英語の授業



再履修生の存在

研究課題の設定

- 英語を学習する意味が見いだせない学習者が自律的に学ぶことができる授業を目指し、協同開発する

プロジェクトメンバー:

NPO法人学習開発研究所(代表 西之園晴夫)の研究グループの有志5名。高橋朋子(武庫川女子大学助手)、東郷多津(京都ノートルダム女子大学講師)、中植正剛(神戸親和女子大学講師)、望月紫帆(NPO法人学習開発研究所所員)、山崎瞳(環太平洋大学助教)

対象授業

★対象授業：英語(Writing)（1年次生必修科目）

★対象者：私立女子大学、英語を専門としない学部
の再履修生（2~4年次生14名）

★使用テキスト Get Ready to Write 2nd
(Longman)（Writingクラス共通テキスト）

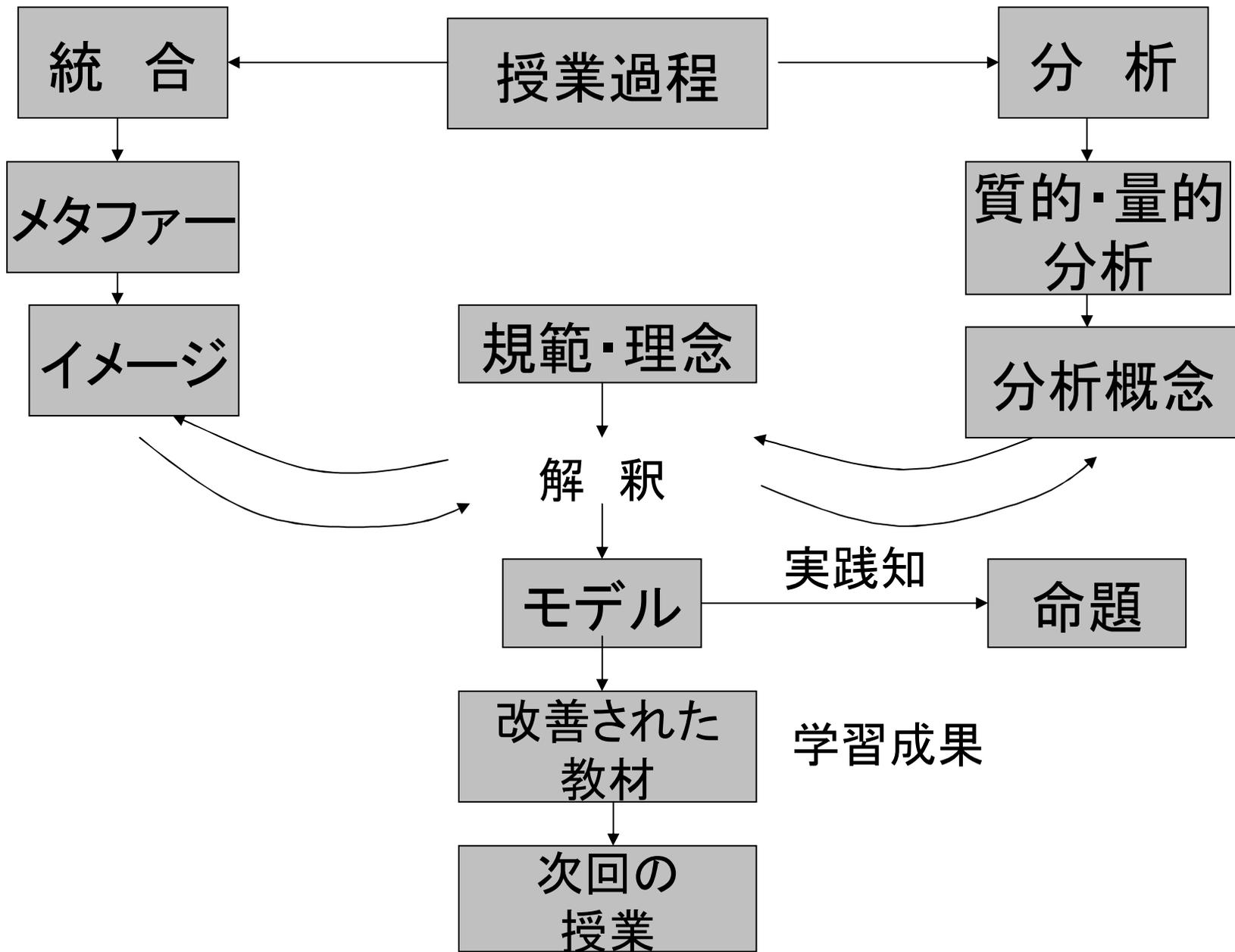
★履修の目標：単位取得

開発手順

★開発は対面(offline)研究会と遠隔(online)研究会とによって実施した。

開発手順

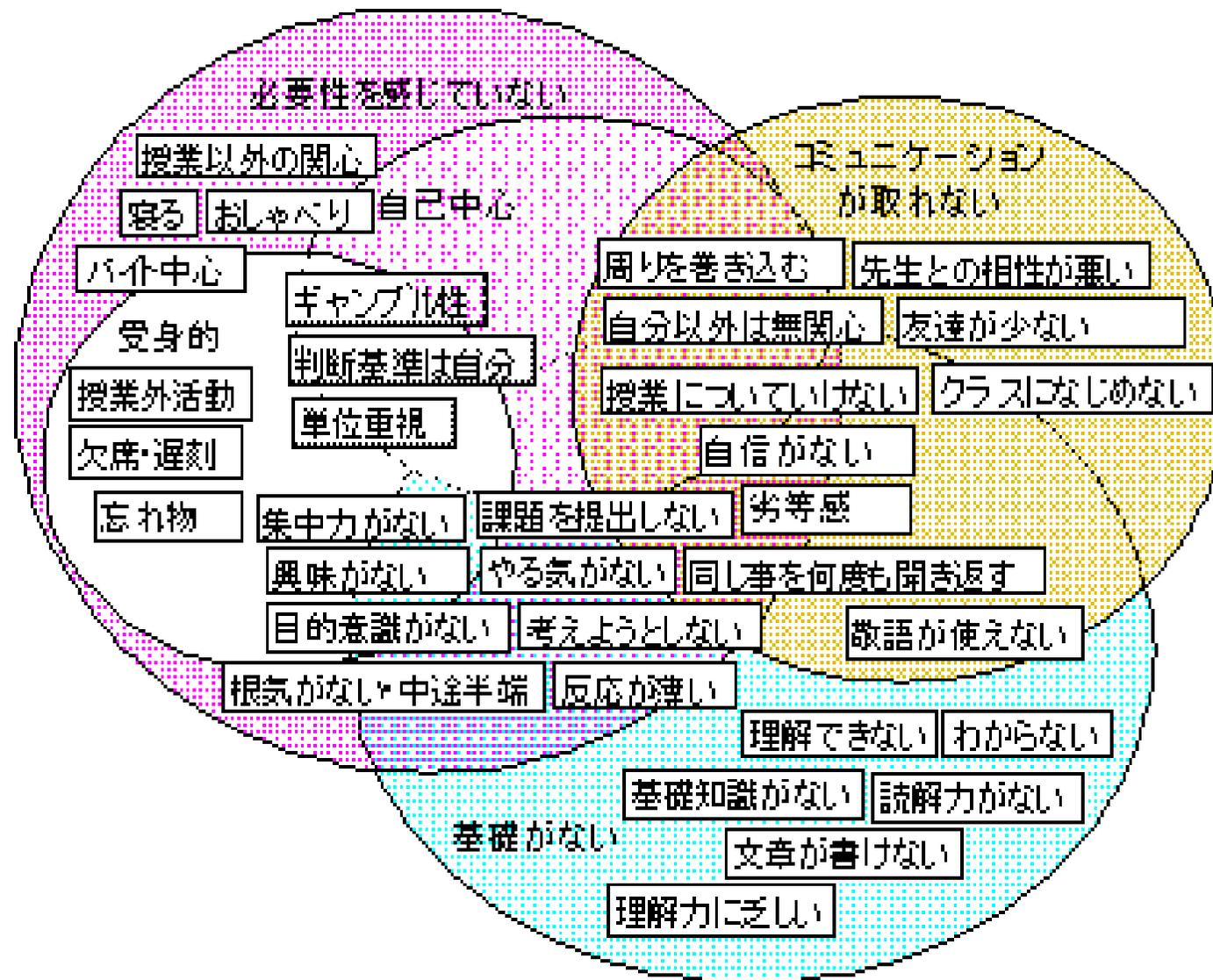
1. KJ法を使って再履修生の特徴を仮定する
2. 授業全体のメタファーを決定する
3. 教材の作成を分担する
4. 授業を行う
5. ビデオを分析する
6. データを解釈する
7. 指導法にフィードバックさせる



モデルと命題の導出方法(西之園・岡本、2007)

KJ法による再履修生のイメージ

図: 高橋朋子



授業メタファー

学生にとって身近なものにたとえる

視角化

英語学習の全体像

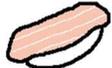
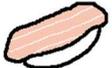
習得レベル

チャプターの関連

評価

回転寿司メタファー

イラスト: 高橋朋子

開始時期			チーム学習				ボーナスチャレンジ 個人でトライ
7月 スタート	chapter9	イクラ A	150円	150円	150円	150円	満点250P
	chapter8	ウニ	150円	150円	150円	150円	満点250P
5月 スタート	chapter7	タイ	120円	120円	120円	120円	満点200P
	chapter6	マグロ		120円	120円	120円	満点180P
	chapter5	ハマチ	120円	120円	120円	120円	満点150P
	chapter4	サーモン		120円			満点120P
4月 スタート	chapter3	ツナ		80円			満点100P
	chapter2	タマゴ				80円	満点80P
	chapter1	エビ		80円			満点50P
			unit1	unit2	unit3	unit4	unit5
			文法問題	コミュニケーション	文章表現1	文章表現2	応用問題(自己表現)

授業担当者の学生に対する希望

- 「できるやんか」という自信をつけてほしい
- できるひとはもっと高いレベルに挑戦してほしい
- 自分でバランスを考えて取り組めるようになってほしい

健康管理メタファー

イラスト:高橋朋子

後期より開講	Chapter9 ★★★★(イリアン)	必修						chapter9までの 応用問題	
	Chapter8 ★★★★(イリアン)	必修						条件クリアした人 がチャレンジできる	
	Chapter7 ★★★(中華)	必修						chapter7までの 応用問題	
	Chapter6 ★★★(中華)	必修						条件クリアした人 がチャレンジできる	
	Chapter5 ★★★(中華)	必修							
前期より開講	Chapter4 ★★(和食)	必修		8P 	13P 	10P 	23P 	chapter4までの 応用問題 条件クリアした人 がチャレンジできる 最高23P	RANK4 ☆☆☆☆ 5P 
	Chapter3 ★★(和食)	必修		8P 	13P 	10P 	20P 		RANK3 ☆☆☆ 4P 
	Chapter2 ★(洋食)	必修		5P 		10P 	17P 		RANK2 ☆☆ 3P 
	Chapter1 ★(洋食)	必修		5P 	10P 		15P 		RANK1 ☆ 2P 
chapter ランク		Unit A	Unit B	Unit C	Unit D	Unit E	アタックチャンス	オマケ	
Unit内容		単語	文法1	文法2	創造	総合問題	自己表現		
学習形態		チーム学習				個人学習			

授業法

- ★グループ、ペア活動を取り入れるが基本的には個々の学生による自律学習を採用する
- 単位取得を目指した「ガイド的教材」の作成
- 授業初回時に学習を自己管理できるような資料を提示
- アイスブレイキングに初回2回を充当
- セルフサービス型コーヒーショップでの英語学習的な雰囲気を提供

学生の作業手順

★学生は計画した学習内容を進め単位を取得

★学習過程は学生と教師双方にとって確認可能

- 腕試しテスト後自分でメニューを組む
- メニューに対応する章の診断テストを行う
- 診断テストの結果と自分の組んだメニューを調整後学習を開始する
- 自己採点し、査定シートで合格判定を行う
- 教師に査定を依頼する
- 学生・教師が双方に合格を確認する
- クリアしたことを記録する

指導法改変のための手順

1. 授業担当者にとっての命題を記述する
2. 観察者と話し合いながら命題、指導法を改変する
3. ビデオ記録を分析、解釈することによって命題、指導法を改変する

今後の課題

- ★各メニューが量的・質的に適切かどうか
- ★合格基準が適正かどうか
- ☆出席していない学生への対処が必要である
- ☆授業時に学習の確認作業を取り入れる
- ☆学生による査定の信頼性を確保する
- ☆学習ガイドを作成する

参考文献

- 西之園晴夫(編著)2007『学習ガイドブック 教育の技術と方法ーチームによる問題解決のためにー』ミネルヴァ書房.
- 西之園晴夫・岡本敏雄(編著)2007『情報科教育の方法と技術』ミネルヴァ書房.

作成した資料、教材など

- 全体の学習マップ
- 学習計画シート
- 「腕試し」テスト
- 「診断テスト」とその解答
- チャプター毎の「査定シート」
- メニューシール